

講義名	オ)基礎技能A(数的処理)		
担当教員	川合 宏之		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 2時限	授業形態	講義
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要 ビジネス社会では複雑な計算や大量のデータ処理にコンピュータを用い、多数のデータの中から役立つ情報を適切に取り、計算処理や論理的思考により分析し、様々な意思決定を行う。そのための数的処理能力は不可欠である。 出題範囲は、民間企業において入社試験の1つとして、多くの企業で活用されている「SPI 試験」の対策の立て方を学ぶ。文系の学生が苦手意識を持ちやすい非言語分野を中心に頻出問題・必出問題についての基本的な解決パターンを学ぶ。自分の志望企業で社会人としてのスタートを切るためにも、民間企業就職を希望する学生の進路を助める。
--

到達目標 <ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算処理及び論理的思考を理解し、数的問題の解を得ることができる。 出題範囲を知り、基本的な解決パターンを身につけることができる。 得意分野と苦手分野を把握し、苦手意識を払しょくすることができる。
--

提出課題 毎回、演習課題を与えるので、能動的に演習し数的問題の解を求めること。また、授業中に完成できなかった演習課題は、次回までに完成させておくこと。そして、次項に示す「準備学修(予習・復習等)」の具体的な内容及びそれに必要な時間」に示した主体的学習を期待する。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック 授業内で実施した演習課題等の解答・解説を行う。これにより自己採点と復習を可能とする。
--

評価の基準 プリントの課題(60%)、毎時の授業への参加度・積極性(40%)により総合的に評価する。
--

履修にあたっての注意・助言他 <ul style="list-style-type: none"> 株式会社イング(学研グループ)のテキストを使用する。 試験期間に試験は行われ、成績は授業期間内で全て評価される。 本講義は原則対面で行うが、通学困難者向けに別途オンライン講義対応を行う。詳細は講義連絡を確認すること。 新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスが修正される可能性がある。

教科書			
.数的処理テキスト	株式会社イング(学研グループ)	株式会社イング(学研グループ)	

プリント資料及び参考文献 必要に応じて授業の中で紹介する。

授業計画 第1回 数的処理の概要及び数学基礎(受講ルール、方程式等の数学基礎、就職試験との関わり等) 第2回 方程式(文字数の計算、方程式、数列等) 第3回 割合(元の量、比べる量、割合、比率等) 第4回 損益算(原価、売値、利益、損益、利益率、割引率等) 第5回 仕事算(仕事の量と仕事の分り、仕事時間の計算等) 第6回 濃度算その1(全体量と当該物の量、濃度表、簡単な濃度計算等) 第7回 濃度算その2(各種濃度計算等) 第8回 速度算その1(時間・距離・速度、速度変化、時刻表等) 第9回 速度算その2(旅人算、追いつけ算、流水算、通過算等) 第10回 順列・組み合わせ(順列、円順列、組み合わせ等) 第11回 確率(確率、コイン問題、サイコロ問題、くじ引き問題等) 第12回 論理(命題、対偶、三段論法等) 第13回 集合(集合、条件、グループ分け、キャロル表、線分図等) 第14回 資料の読み取り(表・グラフの読み取り、各種グラフの選択等) 第15回 学習のまとめ(既習事項の要点整理) ・ 受講者数や状況に応じて講義内容やスケジュールは変更される可能性がある。

授業形態(アクティブ・ラーニング)			
ア:PBL(課題解決型学習)		イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	
ウ:ディスカッション、ディベート		エ:グループワーク	
オ:プレゼンテーション		カ:実習、フィールドワーク	
キ:その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)			

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間 <ul style="list-style-type: none"> 講義前に教科書の該当部分を読んでおくこと。(約1.0時間) 講義後は内容を復習し、確認演習に取り組み、理解度を確認しておくこと。(約3.0時間)

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 本科目は、「気づきの教育」の一環として、自ら気づくことに資する科目である。本科目は、ビジネス社会で必要とされる、多数のデータの中から役立つ情報を適切に取り、計算処理や論理的思考により分析し、様々な意思決定を行う数的処理能力を身につけることができる。それによって、本学の教育の目標である「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」の育成を達成する。さらに、学生が苦手意識を持ちやすい就職試験(SPI非言語分野)の問題について、得意分野と苦手分野を把握し、苦手意識を払しょくし、就職力を高めることにつながる。
--

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考 上記の授業担当者：株式会社イング(学研グループ)専任講師
